■用語解説

【義務教育学校】

義務教育学校とは、小学校と中学校の義務教育9年間を一貫して行う学校のことです。2016年（平成28年）に学校教育法が改正され制度化されました。

一つの学校として、9年間の系統的な教育課程を編成・実施することが特徴で、「中一ギャップ」などの解消・緩和が期待できること、9年間を通し、柔軟にカリキュラムが編成できることなどがメリットとしてあげられています。

制度発足以来、義務教育学校の数は年々増加しており、令和5年現在、全国で200校を超える義務教育学校ができており、多様な教育ニーズに対応する学校として注目されています。

また、「小中一貫校」との違いですが、小中一貫校は、小学校と中学校がそれぞれ独立しているのに対し、「義務教育学校」は、小中9年間が一体化し、一つの学校として運営されます。

【コミュニティ・スクール】

コミュニティ・スクールとは、保護者や地域住民などが学校運営に参画する仕組みのことで、「学校運営協議会」を設置し、地域と学校が連携・協働することで、地域とともにある学校づくりを目指すしくみです。

いわば、学校と地域社会が一体となって、子供たちの教育環境をより良くしていくための制度で、現在全国的に導入が進められています。

具体的には、以下の点が特徴です。

1) 学校運営協議会の設置

保護者や地域住民、教職員などで構成される「学校運営協議会」が設置された学校をさします。

2) 地域とともにある学校:

地域住民が学校運営に参画することで、地域の実情に合った特色ある教育活動や、地域資源を活用した教育活動が展開されます。

3) 地域との連携・協働:

学校と地域が連携・協働することで、地域全体で子どもを育てる意識が醸成され、地域社会の活性化にもつながります。

4) 全国的な導入

現在、国（文部科学省）では、コミュニティ・スクールの導入を進めており、全国で約7割近い学校が導入しています。